

モデル 10-18G 10-22G SBC7HN

一体型デフミッション

●オイルの点検は毎日行ってください。

※HSTオイルの保守並びに交換については必ず販売店にご相談ください。特にオイル交換については、エア抜き作業が必須となりますので、必ず販売店にご相談ください。

●オイルレベルが、オイルタンクの上限と下限の間にあることを確認してください。オイルレベルはHSTが温度上昇すると熱膨張により上昇します。HSTが冷えている時にオイル量を確認してください。不足している場合には販売店にご相談ください。

●水が混入したり、オイルに異常がないかぎりオイルの耐用時間まで交換の必要はありませんが、毎年シーズン前の交換をおすすめします。

●走行ミッションのオイル(ディーゼルエンジンオイル 使用)は、年一回(毎年、雪の降る前に)必ず交換してください。

【交換手順】

1. 注油栓と排油栓を外し、オイルを抜いてください。
2. 完全に抜けた事を確認してから、排油栓を締め、レベルプラグを外し、注油口よりオイルを入れます。
3. 走行ミッション2.5Lですが、レベルプラグよりオイルがあふれるまで入れます。※注油時、オイルジョッキの先にビニールホースを付けると注油が容易に行えます。
4. 注油が終わったら、レベルプラグと注油栓を締めます。

ディーゼル用エンジンオイル(CD相当品)

モービル石油 デルバック1300シリーズ10W

昭和シェル石油 ホワイトパロットS3-10W

新日本石油 HDS-3

出光興産 アポロイルディーゼルモータブS310

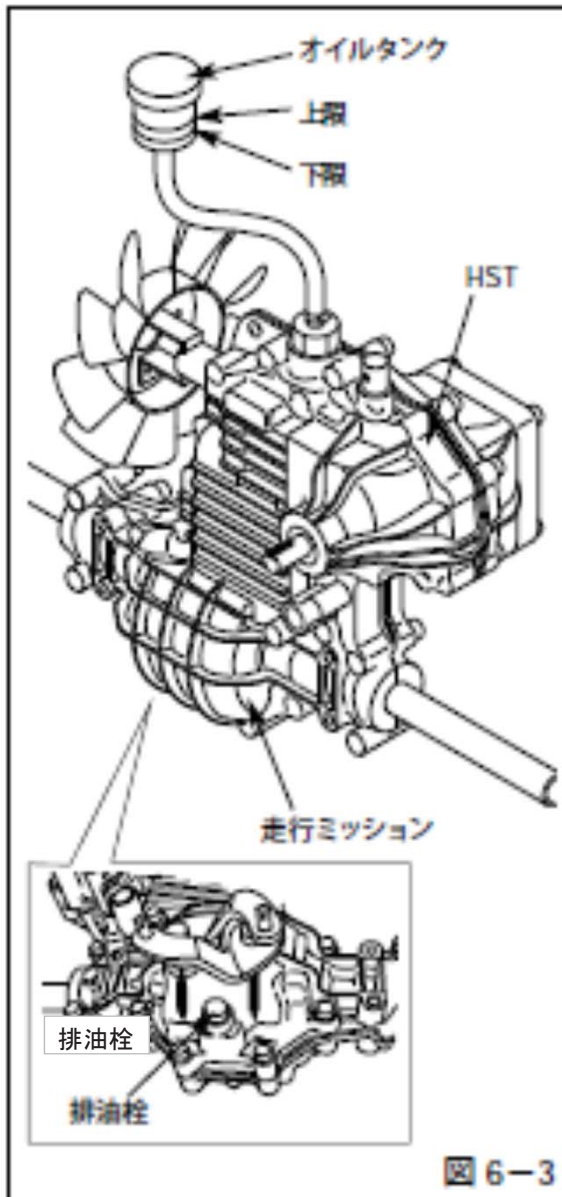
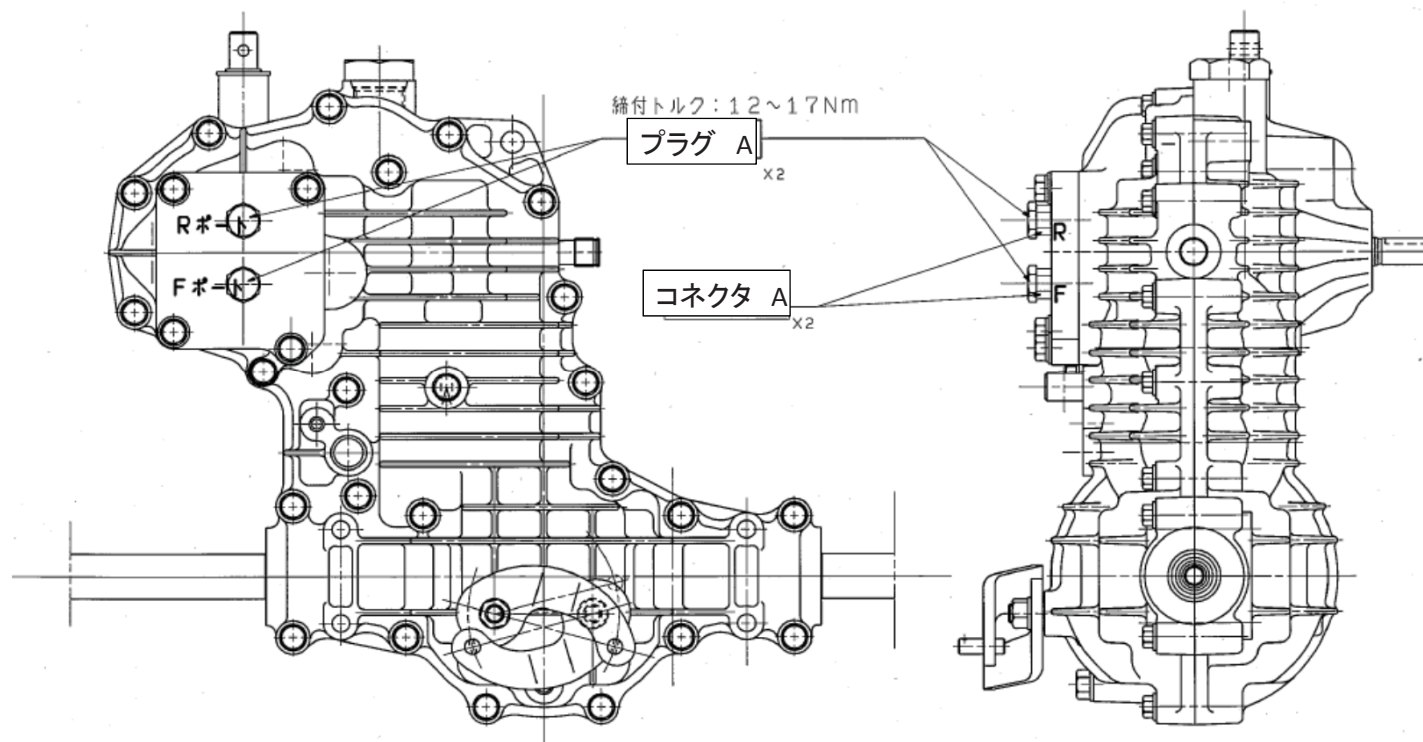


図 6-3

	初期交換時期	2回目以降	オイル種類	オイル規格	容量
走行ミッション	シーズン前		エンジンオイル	10W-30	2.5L



HSTエア抜き及び試運転手順

1) 本機IC:ミリジョンを搭載しすべての周辺部品の取り付けが終了後、サブタンクからオイルを入れる。
その際HSTのエア抜き後のオイルレベルの降下を見越して余分に入れておく事。

(サブタンクの常温範囲目盛り以上入れておく)

2) 本機駐車ブレーキレバーを(入)にする。
(本機サイドクラッチレバーはL, R共(切)になる。)

3) 本機走行クラッチレバーは(切)にする。

4) 本機副変速レバーは高速・低速どちらでも良い。

5) 本機H5Tレバーはニュートラルにする。

6) エンジン始動。

7) 本機走行クラッチレバーは(入)にする。

8) エンジンアイドリング状態でHSTレバーの前後進を繰返しエア抜きを
以下の手順に従って充分行う事。

A. H STレバーを後進側1/4位に固定し、Rポート側のプラグAを軽くゆっくり徐々に
緩めてオイルを漏らし泡が消えるまでエアを抜きそして締める。

注意:オイルが飛び綴るので頻を近づけない事、安全メガネ着用の事。

プラグAの緩め具合は取り付け端面から2.5mm位で良い。

B. H STレバーを前進側1/4位に固定し、Fポート側のプラグAを軽くゆっくり徐々に
緩めてオイルを漏らし泡が消えるまでエアを抜きそして締める。

注意:オイルが飛び綴るので頻を近づけない事、安全メガネ着用の事。

プラグAの緩め具合は取り付け端面から2.5mm位で良い。

注意:プラグAを緩める際にコネクタAも同時に緩む場合があるのでコネクタを
レンチなどで固定しておく事。

C. 次にエンジン定格回転及びHSTバー前後進共フルにて上記A, Bのエア抜きを再度行う事。

D. プラグA(2ヶ所);を締めた状態でエンジン定格回転にてHSTレバーの前後進(フル)を繰返しエア抜きを充分に行う事。

9) 運転終了後、ミジジョンのオイル量チェックして不足していれば補給の事。(サブタンクの常温範囲目盛り内に入れる事)

10) そして実際に本機走行確認する事。'走行不良時、エア抜きが不完全の場合があるので、その場合は再度エア抜き作業(8)項を行う事。

走行不良が軽度の場合は本機にて前後進を何回か繰り返せば良い。

11) 最後Iにオイルチェックする事。

―――以上―――